

【新野球場に求められるもの】

藤崎台県営野球場の移転再整備に向けた候補地の選定が始まります。（提案書の提出期限は7月24日）今後、有識者による審査会が複数回開催され、下記の交通アクセスやまちづくりとの連携、事業の実現性など6項目・200点満点の審査を経て、秋頃に移転候補地が決定される予定です。

今回、熊本市、菊陽町、玉名市、甲佐町が誘致に名乗りを上げました。熊本市は川尻駅西側を候補地として提案し、これまでも地域の皆様が熱心に誘致活動に取り組まれてこられました。私自身も選挙区の県議として、そのご努力と、この地域の未来に寄せる期待の大きさをよく承知しています。

7月18日、川尻公会堂で開催された住民説明会に参加しました。猛暑にもかかわらず会場は満席となり、照明や騒音への配慮、道路や交通対策、商店街との回遊性、川尻駅の整備、防災機能の充実、さらには審査基準における費用負担の考え方まで、地域の将来を見据えた建設的な意見が数多く出されました。地域の皆様の熱意を肌で感じ、私自身も誘致への思いを新たにしたいところです。

一方で、野球場も、私が先の一般質問で取り上げた県立体育館のアーリーナ整備も同じですが、大切なのは「建設すること」ではなく、「整備した後も長く県民に利用され、地域の発展につながる施設であるか」という視点です。

施設は完成した瞬間ではなく、その後何十年にもわたって維持管理費や運営費を県民全体で負担していくこととなります。だからこそ、県が示した審査基準に基づき、公平・公正で透明性の高い選定が行われることを期待しています。

そして、地域の皆様が積み重ねてこられた熱意が正當に評価されるとともに、県民全体にとつて最良の選択となるよう、私も選挙区選出の県議として、これから現場の声を県政へしっかり届けてまいります。

審査項目	観 点	配点
① まちづくりの考え方	1) ビジョンとの整合、提案市町村において行う取組み等による県勢への効果及び実現性	10
② 移転候補地の条件	1) 駅近・街中の程度 2) 土地の権利関係や各種法規制等による影響の程度、安全性、インフラなどの都市機能や交通アクセスの充実の程度	40
③ 用地確保の見込み	1) 用地確保の時期、用地確保の実現性	40
④ 費用負担	1) 費用負担の内容	80
⑤ 独自の取組み等	1) 提案市町村において行う取組み等による新野球場の魅力向上への効果及び実現性	30

【審査基準表】

【創造的復興が実を結ぶ】

瑞鷹「瑞鷹の杜 枅大蔵」オープンを迎えます

6月24日、瑞鷹株式会社の新・酒蔵体験施設「瑞鷹の杜 枅大蔵」のグランドオープン記念式典に出席し、鏡開きにも参加させていただきました。

また、その後、吉村社長からは、グループ補助金の申請に必要な膨大な資料づくりに苦闘しているという切実なお話を伺い、復旧に懸ける並々ならぬご苦労と覚悟に胸を打たれたことを今でも鮮明に覚えています。

あれから10年。その歴史ある蔵は見事によみがえり、「酒はおとなのアミューズメント」をコンセプトに、日本酒文化を五感で体験できる新たな交流拠点として生まれ変わりました。さらに、熊本初となる一年中搾りたての日本酒が味わえる生樽サーバーなど、新たな挑戦も始まっています。

しかし、その賑わいは熊本地震によって一変します。私の脳裏には、地震直後の光景が今も鮮明によみがえります。当時、衆議院議員だった野田たけし先生と吉村会長のご案内で被災した蔵を視察した際、その無残な姿に言葉を失いました。

今回の施設は、単なる酒蔵の再生ではありません。159年受け継がれてきた酒造りの伝統を未来へつなぐ、川尻の歴史・文化・観光を発信する拠点でもあります。まさに熊本の復興を象徴する素晴らしい事業だと感じました。



震災からの復興ではなく、未来への創造へ。その思いが形となった「瑞鷹の杜」は、川尻の新たなランドマークになると確信しました。蔵元・吉村謙太郎さんをはじめ関係者の皆様の挑戦が、地域の誇りとなり、熊本の新たな魅力を全国、そして世界へ発信していくことを心から期待しています。

【真の東京一極集中の是正とは】

東京一極集中が依然として止まりません。5月末、公表された国勢調査の結果で、東京への人口集中が改めて鮮明になりました。九州・沖縄8県の中で人口が増加したのは沖縄県のみ。熊本県もこの5年間で3.5%減少しています。一方、東京都は増加を続けており、人口をめぐる地域間競争はさらに激しさを増しています。

人口は東京へ集まり、企業も本社機能を東京へ集約し、それに伴って税収も東京へ集中しています。その結果、行政サービスにも地域間格差が生まれ、さらに人や企業が東京へ集まるという循環が続いています。

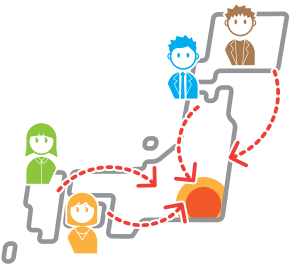
実は、先日参加した会合で、霞ヶ関のお役人が「事業の実現には地域の熱量が大切であり、その熱量を財務省に伝えていくことが重要」といった趣旨の話をされました。地域の皆さんの思いや主体的な取り組みが大切であることは言うまでもありません。しかし、その話を聞きながら、私は改めて日本社会の構造そのものについて考えさせられました。

国は長年「地方創生」を掲げています。しかし現実には東京一極集中は続き、地方の人口減少や人手不足は深刻さを増しています。他方で、行政に限らず企業や各種団体においても、重要な判断や会議、要望活動となれば東京へ赴くことが当たり前になっています。

何かあれば上部組織の判断を仰ぎ、中央との調整を優先する。そうした構図は今もなお社会の至るところに残っています。

興味深いのは、多くの人が東京一極集中の是正が必要だと考えているにもかかわらず、その仕組みを支えているのもまた私たち自身であるという現実です。東京に機能を集め、東京で判断し、東京へ足を運ぶ。その積み重ねが、結果として東京一極集中を強めている側面もあるのではないのでしょうか。もちろん、組織間の連携や人的な繋がりは大切です。しかし、人口減少と人手不足が進むこれからの時代において、これまでと同じ仕組みを続ける余裕はもはやありません。

地方創生とは、単に地方へ予算を配ることではなく、地域が自ら考え、自ら判断し、自ら責任を持つ社会をつくることです。東京一極集中を本気で是正したいのであれば、国や制度だけでなく、私たち自身の「当たり前」も見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。



【辻立ちを始めるにあたり】

前回2023年の県議会議員選挙において、多くの方のご支援で望外の得票をいただき3回目の当選させていただきました。

私見ですが、投票の結果はあくまで「その日、1日限りのもの」だと思っています。また、選挙に『絶対』はなく、有権者の皆さまからいただいた信任は、日々の活動の積み重ねによってのみ維持できるものだと考えています。だからこそ私は、前回の投票日の翌朝6時から活動を再開しました。

それこそ、「次の選挙は翌日から始まる」という覚悟で、地域を歩き、現場の声に耳をすませて課題の解消はもとより、議会活動や情報発信に取り組んできました。そして気がつけば、あれから3年半が経とうとしています。

この間、県会議員として県政に対する現状認識の確認や新たな提言、また地域における道路や通学路の課題解消、安心・安全のまちづくりの実現など、地道ではありますが一つ一つ積み重ねてまいりました。

このたび、6月議会での質問終了直後から朝の辻立ちを始めました。それは単なる選挙運動ではありません。「初心を忘れない」という自らへの戒めであり、周囲の「大丈夫では…」という空気に甘えることなく、改めて緊張感を持って地域と向き合うためです。

これからも一日一日を大切に、地に足のついた活動を続けてまいります。今後ともご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

